令和8年度山口市文化財保存活用評価会議

令和7年度総合評価

評価	評価の内容
A・(B)・C	令和7年度は実施予定とした50の措置のうち、㉑消防訓練の実施、㊾関係者が情報共有を行う場の設置を除く48項目に取り組みました。 特に、新たな仕組みとして文化財の保存活用に対する財源確保のため、ふるさと納税を活用した支援制度を創設したほか、史跡の活用イベントを初めて地元地域と共催で開催するなど、陶・鋳銭司地域を中心に周防鋳銭司設置1200年記念事業に取り組みました。記念事業は、山口市文化財保存活用推進会議や地元地域の意見を参考にし、一般向けの講演会や親子向けのフェスイベントなど、幅広い年齢層が参加できるよう配慮しました。 成果指標は、①文化・芸術・歴史に触れる機会に恵まれていると思う市民の割合、②山口市の文化・芸術・歴史に誇りや愛着を持っている市民の割合いずれも上昇し、また③観光客数も引き続き増加しました。しかしながらいずれも令和9年度の目標値は下回っています。 継続的な取組や普及啓発事業の実施により、一定の成果が出ていますが、未実施の取組について実施に努めるほか、引き続き歴史文化資源の積極的な情報発信をおこなうとともに、関係団体だけでなく市民や地域住民とのかかわりを増やすことにより、多くの人に興味関心を持ってもらい、保存や活用の意識を高めていく必要があります。